

授業の具体的展開例

資料を読み取り個人及び集団で解決

T：これは日本の輸出品の変化を表したグラフです。これを見てどんなことが分かるでしょう。

～自力での解決～

T：では、気付いたことを発表しましょう。

C1：繊維品が減りました。

C2：機械類や自動車が増えました。

T：この写真を見て気付くことは何でしょう。

C1：外国の人がバイクに乗っている。

C2：日本のバイクだ。

C3：外国の人に何か教えている。

T：そうですね。これは、マレーシアの生活の様子や仕事をしている写真です。このことからどんなことが分かりますか。ワークシートに書きましょう。

～集団での解決～

T：それでは、自分で考えたことをグループの友だちと交流してまとめましょう。

～机間指導～

T：交流したことを発表しましょう。

C：マレーシアの人と日本人が仕事で協力している。

C：日本の製品がマレーシアの生活を支えている。

C：日本の技術をマレーシアの人に教えている。

T：そうですね。製品を輸出するだけでなく、製品をつくる技術を外国の人に伝えて、その国の工業の発展を手助けすることも増えてきました。日本のものづくりの素晴らしさも輸出しているのですね。

「活用」の力を育てる指導の工夫

本時では、資料を読み取り、そこから分かることを自分の言葉で説明する活動を重視している。そのためには、表現する力を育てるためのワークシートの書き込みや話し合い活動の指導が大切である。また、日頃から資料の読み取りや言葉を文字に表すことに慣れさせる指導の積み上げが重要となる。

グループ学習の時間は、自分の考えを整理できた児童には他の友だちに正確に伝わるように、考えがうまくまとまらない児童には友だちの意見を聞いて自分の意見が持てるようにしていく時間とする。

「活用」の力を育てる評価の視点

本時においては、「資料からこう考えました。その結果このようなことが分かりました。今後は、このようなことになると思います。」のように、ていねいに説明する活動を取り入れていくようにする。相手によく分かるように表現する力を伸ばしたい。

「活用」の力を評価する具体的な視点としては、以下の4つが考えられる。

- ① 資料を見て分かること、さらなる予測や気付き等、分かりやすく説明することができる。
- ② 資料を見て分かること、あるいは、今後の変化どちらかに気付き、説明することができる。
- ③ どちらも気付いていなかったが、友だちの発表や教師の説明を聞き、理解することができる。
- ④ どちらの考え方も理解できない。

④の状態の児童には、十分な個別指導が必要である。また、①②の状態になるように話し合いの場面を充実させるとともに、他の学習の話し合いの場面でも「はじめに、次に、最後に。」というように接続語を活用して自分の言葉でまとめることを積み上げていく。日常的に「活用」の力を育てることを意識することが大切である。

板書例

CLICK

板書例は
こちら

CLICK

学習指導案は
こちら

CLICK

評価問題は
こちら



単元の流れへ

本時の流れへ

HOME